

議会だより

ひだか

第178号

令和6年7月25日

児童手当の拡充

補正予算

2～3

風力発電に対する姿勢

一般質問

5～7

早期完成を待つ町道高家中央線

委員会レポート

8

【発行】 日高町議会 〒649-1213 和歌山県日高郡日高町大字高家626

【編集】 議会広報特別委員会 TEL (0738)63-3810 Eメール gika.i001@town.wakayama-hidaka.lg.jp

完成した比井崎住民公園

6 月 定 例 会

令和6年第2回定例会は6月10日から18日までの9日間の会期で開催した。今定例会では、令和6年度補正予算・条例など議案23件、報告3件が提案され、慎重審議の結果、原案の通り可決した。

令和6年度一般会計補正予算

既定の予算額に4,453万円を追加し、総額56億4,211万3千円とする。

— 主な増額の内容（歳出） —

- ・ 児童手当の所得制限廃止と対象年齢の拡充などで3,537万円
- ・ 海岸保全施設長寿命化工事（比井漁港の水門）で800万円
- ・ 地域づくり応援事業補助金（小浦地区ほ場整備工事後の農地）で50万円

比井漁港水門の開閉機修繕

問 海岸保全施設長寿命化工事の詳細説明を。

産業建設課長 令和5年12月に津波注意報が発令され、自動的に閉まった水門がその後、動かない状態となった。応急処置を行ったが、老朽化が進んでいるため開閉機を修繕することにした。

資材の入荷に時間がかかるため工事完了は、令和7年3月末になる予定である。



開閉機を修繕する比井漁港の水門

地域づくり応援事業補助金

問 地域づくり応援事業補助金の説明を。

企画まちづくり課長 小浦地区のほ場整備事業で、整備後のほ場に草花を栽培し、地力増進と自然豊かな観光スポットを目指し、小浦土地改良区が県の「地域・ひと・まちづくり補助事業」に応募し採択された。

町としても新たな取り組みを支援するため、県費補助残の1/2（ただし上限額50万円）を補助することにした。

今年度は全体10haのうちの3haで実施し、最終的にはレンゲを使ったレンゲ米の産地を目指す。



花の種を蒔く小浦地区のほ場

児童手当の拡充

問 児童手当拡充の詳細説明を。

子育て福祉健康課長 令和6年10月分から所得制限を廃止し、対象年齢を現行の中学3年生までから高校3年生までに拡充する。

改正後の給付額は1カ月あたり3才未満が1万5千円、中学3年生までが1万円で現行から変更はなく、高校生年代が新たに1万円の支給となる。

また、第3子以降に対する給付額について、現行の1万5千円から3万円に増額するとともに、第3子以降の給付対象を小学6年生までから、高校3年生までに拡大するもの。

児童手当対比表

現行（令和6年9月まで）

0～2歳	1万5千円	
3歳～小学生	1万円	第3子以降 1万5千円
中学生	1万円	
高校生	無し	
所得制限	有り	



拡充後（令和6年10月から）

0～2歳	1万5千円	第3子以降 3万円
3歳～小学生	1万円	
中学生		
高校生		
所得制限	無し	

監査委員



田口 英穂 氏
(阿尾)

監査委員として任命したいと議会に同意を求められ、全員一致で同意をした。

令和6年度特別会計補正予算

国民健康保険特別会計

問 システム改修費の詳細説明を。

いきいき長寿課長 マイナ保険証の登録を行っていない方に、保険証に代わる資格確認書を発行するため。また、安心してマイナンバーカードを保険証として利用できるよう、加入者情報等を通知するためのシステム改修に係る費用。

なお、今回、通知する内容は被保険者の氏名とマイナンバーの下4桁である。

条例改正

日高町国民健康保険税条例

賦課限度額の引き上げ・法定軽減世帯の拡大

	賦課限度額	
医療分	65万円	65万円
支援分	22万円	24万円
介護分	17万円	17万円

農業委員会委員 (任期：3年)

こかど たかはる
小角 孝治 氏 (原谷)

たまき かずひろ
玉置 和弘 氏 (志賀)

かさまつ おさむ
笠松 理 氏 (萩原)

まえい ひでかず
前井 秀一 氏 (志賀)

さきやま ひろあき
崎山 宏昭 氏 (池田)

しらい ゆうた
白井 雄太 氏 (小池)

のだ ひでき
野田 秀樹 氏 (小中)

やまもと ゆたか
山本 豊 氏 (比井)

いなば なおみ
稲葉 直美 氏 (志賀)

しらい ふみとし
白井 文壽 氏 (阿尾)

さかぐち たかし
さくぐち 孝 氏 (志賀)

とがみ こうじ
戸上 浩二 氏 (御坊市)

固定資産評価審査委員会委員 (任期：3年)

さき しげかず
崎 繁一 氏 (産湯)

くすやま まもる
楠山 護 氏 (萩原)

工事請負契約の締結

田杭漁港防波堤設置工事

落札業者：株式会社 中村建設
金額：1億648万円
工期：令和7年3月18日
落札率：92.95%



工事中の田杭漁港

防災行政無線設備機能強化工事

落札業者：株式会社 サイバーリンクス
金額：4億8,092万円
工期：令和8年3月31日
随意契約



現行の防災行政無線設備

すぎうら けん た
杉浦 研太 議員



若もの広場はいつから使える？

町長 農地の復旧後に整備する

杉浦 昨年の水害以降、若もの広場は土砂の置き場に使用され、現在も、町民が使えない状態が続いている。

グラウンドとしての復旧を早期に進めて頂き、町民、特に子ども達が元気いっぱいスポーツを楽しめる場所に戻してほしいと思うが、今、どのような状況で、今後の復旧の見通しは。

町長 水害により農地から耕作土が流出する災害が発生し、この災害復旧に必要な耕作土を確保するため、ため池の堆積土を利用し、復旧することとなった。

このため若もの広場を堆積土の一時的な集積場として利用し、農地の復旧を完了させ、速やかに整備を行い、気持ちよく利用して頂けるよう努めたい。

杉浦 復旧までの日程はどのようになっているか。

町長 9月上旬から池の水を抜き、11月末頃まで若もの広場で堆積土を乾燥させ、3月末までに全ての農地の復旧を見込んでいます。

杉浦 グラウンドの整備は来年度になるのか。

産業建設課長 農地の復旧作業が終了次第、年度は変わってしまうが、早急に若もの広場全体を整備したいと考えています。

杉浦 まだまだ使えるようになるまで時間がかかるようだが、最初にも言ったように、子ども達が元気いっぱいスポーツを楽しめる場所に早く戻して頂きたい。



早期の利用再開が待たれる若もの広場

学校給食費の無償化

杉浦 10月以降、給食費の無償化について実施する気持ちはあるのか。

町長 県と足並みを揃え、実施に向け前向きに考えています。

杉浦 実施に向けて、予算はどうするのか。

町長 9月定例会に補正予算を計上し、今年度給食無償化を図りたい。

杉浦 来年度以降の考えは。

町長 県が7年度以降も2分の1の補助を行う事が決定すれば、引き続き町も2分の1の負担をしていく考えであるが、基準単価額によっては今年度と同じ無償化か、第3子以降の無償化から始めるかなど、さまざまな角度から検討していきたいと考える。





みやもと まさふみ
宮本 雅文 議員

町の財政は大丈夫か

町長 歳出の抑制を図っていく

宮本 健全財政を維持するためには財政調整基金の最低残高は10億円と以前言われたが、今期末10億円を下回る可能性がある。このような状況をどう認識し、打開していくのか。

町長 財政調整基金残高は、6月補正後は約6億1,000万円の見込みである。

要因は、社会保障経費、公共施設の老朽化対策経費の増加によるものである。

社会保障経費などの経常経費に充てる財源については、今まで以上に国・県による各種補助金制度や地方債制度を研究し、有効活用できるように努める。また、事業の効率化や経常経費の縮減など歳出の抑制を図っていく。

宮本 経費が増加する1番の大きな要因は、人口の増加に関係していると思うが、町長はどのような認識を持っているか。

町長 人口が増えれば住民サービスに予算が要る。そういうことである。

宮本 人口が減ると充当率100%の過疎債とかいろんな有利な制度がある。人口の増加したところには、恩恵を被るような制度を作ってくれと国、県に要望をしてはどうか。

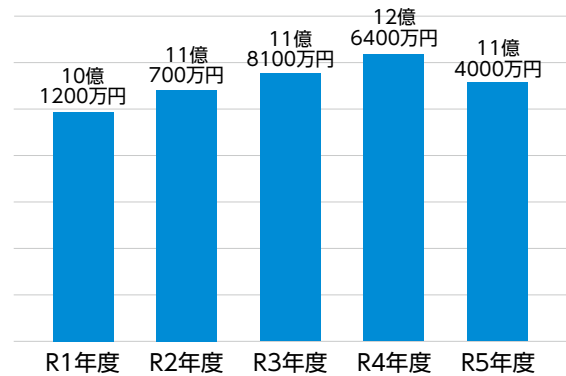
町長 私も、増えた部分はしっかり国が見てくれれば本当にありがたい。しかし、今の現状そういう制度がない。制度化に向けて、国に対し提案はしていきたい。

宮本 ふるさと納税だけでなく、企業誘致などは考えていないのか。

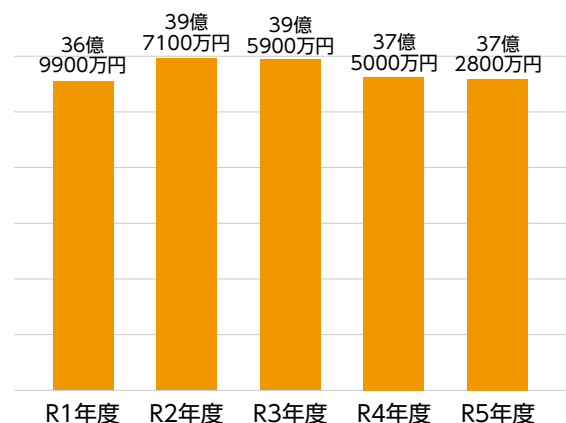
町長 農業用地の兼ね合いや、自然保護の観点などから、大規模な工場などを誘致するのに適した場所が確保できないのが現状である。

また、仮に大規模な用地が確保できたとしても、用地への道路やインフラ施設の整備に係る費用などを考えると、積極的に働きかけることができない状況である。

財政調整基金推移



地方債残高推移



にしおか かなこ
西岡 佳奈子 議員

風力発電に対する基本姿勢は 町長 推進という考えではない



西岡 新白馬風力発電事業の環境影響評価方法書の縦覧、説明会が行われ、多くの心配や反対の声が上がっていた。

基本的な姿勢は。

町長 推進しているという考えではない。全町民の生命と財産を守ることが使命であり、慎重に対応していきたい。

西岡 昨年、対象事業実施区域である原谷と、萩原の住民を対象に、2回の説明会が行われた。しかし、区域から2km圏内には、ほかの地区もある。特に荊木は1km圏内に大勢の人が住んでいる。

原谷・萩原は、林地開発許可の関係で同意が必要という認識で説明会が開かれた。荊木は、あらゆる手続き面で同意が必要ないとの認識か。

企画まちづくり課長 事業者は、まず、「土地所有者に対するの同意を」という考え方で説明会を行った。今後、林地開発許可にかかわって、設置位置や水の流れなど協議の中で説明が必要になると考える。

西岡 全国各地で健康被害の訴えがある。当町でも起こるかもしれないという認識は。

町長 これから調査ということなので、それをうけて考えていきたい。

西岡 当町で健康被害等の事例が現れたときに、町として責任をもてるか。補償できるか。

町長 事業者が考えていかなければならない。



1500kWの既設風力発電機（白馬ウインドファーム）

西岡 原谷、萩原、荊木をはじめとして、計画区域から2km圏内に多くの民家があり、生活がある。加えて、内原保育所が1km、内原小学校が1.1kmの距離となっている。山を切り開くことによる土砂災害の危険もある。

再生可能エネルギーが地球温暖化防止に役立つといわれる。しかし、今回の計画のように生活環境、自然環境を破壊し、企業の儲け優先で進めることがあってはならない。今回の計画を受け入れるべきでない。

町長 生活・健康に影響があってはならないと考えている。住民の立場で慎重に対応していきたい。

— 他の一般質問 —

来年度以降の保育所運営について

委員会レポート

総務福祉常任委員会



生活介護事業所インクルひだか

委員会は、太陽福祉会が4月に日高中学校南に開所した「生活介護事業所インクルひだか」を視察した。

当施設は、重度障害者の日中の活動拠点として、軽作業、機能訓練、入浴支援などを行っている。

定員・登録人数は20名で、地震等発生時には福祉避難所としても機能し、地域に貢献したいとの事であった。

町内に障害者支援の事業所ができたことは、地域福祉の推進に役立つことであり、生活支援として、家庭で介護されている家族の負担軽減に繋がるものであると期待している。

産業教育常任委員会

委員会は、町道改良事業について施工、計画中の「町道高家中央線」「町道御所ノ前線」「町道谷口中志賀線」の3路線の進捗状況について説明を受けた。

町道高家中央線は完成すれば、車道5m、歩道1.5mとなり、地域の主要道路として車両・歩行者が安全に通行でき、災害時には国道42号と並行し緊急用道路としても使う。また平常時においては地域の主要道路としての役割を持つため、本年度をもって必ず工事を完了するよう求めた。

残りの2路線においても、地域の交通安全に寄与するものであり、早期完成を望むものである。



早期完成を待つ町道高家中央線

編集後記

5月に日高町でツキノワグマの出没が確認されました。高家、小中、萩原と民家に近い場所です。近隣の方も心配していると思います。本来ツキノワグマとは、臆病で、わざわざ人を襲う事はないらしいですが、野生動物ですし油断はできません。

紀伊半島のツキノワグマは地域個体群であり、絶滅危惧Ⅱ類で個体数は少ないと思うのですが、人里まで出なければならなくなっているのでしょうか？

野生動物の被害は全国で増えていて、捕獲頭数が日高町でも昨年度、鹿523頭、イノシシ155頭、猿88頭でした。

人と野生動物の領域が曖昧になり、野生動物も人里に慣れた個体が増えているのも要因の一つなのではないでしょうか。

山中 雅嗣